

I 神の先行的恵み。イエス様こそ、真の知恵があり、賢いお方であり、純真で、平和、寛容、温順なお方、また、あわれみと良い実に満ち、えこひいきがなく、みせかけのないお方です（：13、17）。この主が、主を信じる私たちの心におられ、私たちに対してそのように接して下さるお方です。まずこの恵みを覚え心から感謝しましょう。

II 私たちが主から離れている時の知恵→私たちの心の中に、苦々しいねたみや利己的な思いがある。：14。秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがある。：16。主が、このような私たちの罪を負って十字架で身代わりに死んで下さった恵みを感謝しましょう。「苦々しい（冷酷な、つけんどんな、意地悪な）ねたみや利己的な思い」→神の御前で自分の分、ペースを忘れ、他の人と張り合おうとし、自分と人を比べるとき、ねたみが起きます。主の御前で自分の分、自分のペースをつかむことが大切です。「利己的な思い（原語：党派の歓心を買う、野心、競争心、党派心、利己心、我欲、争い、喧嘩好き、反抗心）」→この地上の知恵や知識が増す時、私たちは、自分と意見を異にする人に、すぐに敵対心を抱きやすくなります。それは、自分の主張こそいつも正しいという誇りがあるからです。「自慢したり、真理に逆らって偽ったりする」：14。知恵とは真理を知る事、すべての物事を神の視点で考え判断する事です（ローマ12：2）。真の知恵、真理は、人を誇らせたり、利己的にしません。真理は、自分自身の罪や醜さ、弱さを示して下さるからです。ねたみと利己的な思いを持ちながら自分の知恵を誇っているなら、表と心の中が矛盾しており、真理に逆らう偽善者となります。「そのような知恵は、上から（神から）来たものではなく、地上のもの、肉的で悪魔的なものです」：15。「ねたみや利己的な思いのあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです」：16。私たちの神は、「神は混乱（この原語は、ここの秩序の「乱れ」と同じ語）の神ではなく、平和の神なのです」（Iコリ14：33）です。ですから、この神の知恵が、秩序の乱れを生むはずがありません。「すべてのことを適切に、秩序正しく行いなさい」Iコリ14：40。ねたみ、敵対心、利己的な思い、秩序の乱れの特徴＝

①正常な判断が失われ、とにかく反対する。内心は、賛成であっても。

②相手を理解しようとする思いが消える。距離と壁をますます作っていく。

③闘争心、反抗心が心を支配し、交わり、関係は、正常な機能を発揮しなくなる。

④敵対心の行き着く所は、相手の（意見ではなく人格、存在そのもの）否定であり、ついには相手を抹殺しようとする。そこにあるものは「あらゆる邪悪な行い」：16である。秩序が乱れるとき、そこに残るのは、それぞれの身勝手な行いだけです。私たちの心にも、これらの罪があります。主の十字架の恵みで赦され、御聖霊により、心がきよめられ、愛が満ちるように祈りましょう。

III 上（神）からの知恵の特徴

1. 「その知恵にふさわしい柔和な行いを、立派な生き方によって示しなさい」：13。最も知恵に満ちておられた主は「心が柔和でへりくだっている」（マタ11：29）方でした。自分に知恵や知識があると思いがっている人の特徴は、高慢であり、他の人に厳し過ぎたり、不寛容になったりすることです。自分の意見や行動を絶対化するところから分裂や争いが起こります。知恵が本物かどうかは、へりくだった心と生活で分かるのです。へりくだった人は、聞く耳のある人であり、知恵、正しい判断を身に着けて行くのです。へりくだった人は、聞く耳があり、神と人から学び、正しい知恵、判断を身に着ける。

2. 「上からの知恵（神からの知恵）」：17。へりくだった人に神が与えて下さる知恵。上（神）からの知恵を示す17節を順番に味わいたい。

①「清いもの」：17。潔白、清純、きよいの意。心の中にねたみ、敵対心がありながら自分を誇るような偽善のない心。誤った判断、悪い点はごまかさず認める誠実。※ある人の言葉「裁判官に一番大切な事は？」答え「間違わない事だ」。それに対し誠実な裁判官の答え＝「私たち人間の裁判官は、完全ではない。間違ふ事もある。大切な事は、間違いを認める誠実さだ」。聖い神を信じる者には、この聖さ、純真さ、誠実さが与えられます。

②「平和」。主を信じて自分の罪が赦されると、まず神との平和ができます。その平和は、自分との関係（神が受け入れられた自分を自分でも受け入れる＝自己受容）、人との関係（赦し、受け入れる、違いを認め合う）に影響を与えます。私たちの憎しみの心を、赦しと愛と平和（平安）の心に神が変えて下さるからです。神との関係が崩れていると、人との関係もガサガサしてきます。

③「優しく」原語の意＝寛容、寛大な。柔和、温和な。優しい。親切的な。神は、神と交わる私たちにこの心を与えて下さるのです。

④「協調性」原語の意＝喜んで従う。従順な、温順な。他の人の話をよく聞く。自分の意見を言っても良い。と同時に自分の意見だけを無理に押し通そうとしない。間違った事でなければ、自分の意見でない事が決まっても従い協力する協調性。

⑤「あわれみと良い実」。他の人の悲しみや苦しみに共感し、寄り添う。その人々を慰めるために、相手に負担を与えないように配慮しつつ、真に助けとなる行為（良い実）をする。

⑥「偏見がなく」。二心でなく、純粹。良い地位に就くために悪い策略を巡らしたりしない。人を地位、人種、見かけ、性別、能力等で差別しない。党派心のない。主にあって一致する。

⑦「見せかけのないもの」。偽りのない。偽善のない。演じたふりをしない。誠実。表裏のない真実さ。

3. 「義の実（思いと行為が神のみことろと一致する実）を結ばせる種は、平和をつくる人々によって平和のうちに蒔かれるのです」：18。平和を作る人は、心にねたみや敵対心を持っていなくて、悪口、陰口、噂話を広めません。自分の所で止めます。口の自制を祈り求めます。すべてを御存じの神に祈り委ねます。関係の近い人の噂で、必要と導かれるなら、祈りつつ本人と交わります。曲がった噂ではなく、主を間においた交わりで真実を知り、信頼関係を養えるように。ある人を憎んでいるなら、神に正直に告白し、自分自身が、今日まで、どんなに大きな愛と寛容で神に愛され赦されてきたかを深く思い起こし心から感謝します。そして、祈ります。「あなたが私を愛し赦されたように私も人を愛し赦すことができますように」。また人生に必要な知恵、判断力、識別力が与えられるように祈りましょう。「あなたがたのうちに知恵の欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます」ヤコブ1：5

祈り：神からの知恵に満たされ、争いをつくる者ではなく、主にある平和をつくる者となり、義（神の御心、神の前の正しさ）の実を結ばせる種を蒔く者として下さい。